資料目録

イヴァン・イリイチの著書（共著を含む）・論文他

・“ The Futility of Schooling in Latin America,” *Saturday Review*, vol.51, 1968.
・“Commencement at the University of Puerto Rico,” *The New York Review of Books*, vol.XIII, no.6, 1969.
・“Outwitting the ‘Developed’ Countries,” *The New York Review of Books*, vol.XIII, no.8, 1969.
・*Deschooling Society*, New York : Harper and Row, 1970.
・“ The Alternative to Schooling” *Saturday Review*, vol.LIV, no.25, 1971.
・*After Deshcooling, What?*, New York : Harper and Row, 1973.
・*Tools for Conviviality*, New York : Harper and Row, 1973.
・“ Pilgrims of the Obvious,” *RISK*, vol.11, no.1, World council of Churches, 1975.
・“ The need-makers,” (Philip Slayton and Michael J.Trebilcock ed. *The Professions and Public Policy*, Toronto : University of Toronto Press) , 1976.
・*Disabling Professions*, London : Marion Boyars, 1977.
・*The Right to Useful Unemployment*, London : Marion Boyars, 1978.
・“ Vernacular Values and Education,” *Teachers College Record*, vol. 81, No.1, Fall, 1979.
・*Shadow Work*, Boston : Marion Boyars, 1981.
・「工業化社会の終末と教育」（『世界』第 425号、 岩波書店、1981年 4月）。
・Illich, Ivan, and Sanders,Barry, *ABC : The Alphabetization of the popular mind*, San Francisco : North Point Press, 1988.
・“The History of Homo Educandus,” *In the Mirror of the Past*, New York : Marion Boyars, 1992.
・*In the Vineyard of the Text*, Chicago : University of Chicago Press, 1993.

土田杏村の著書・論文他

・「恩師藍原五三郎宛の杏村書翰（上）」（1910年 4月16日）（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』（非売品）、新潟県佐渡郡新穂村新穂村教育委員会編集発行、1991年、収録）。
・「絶対他力教に対する疑問」（『新潟新聞』、1910年 6月22日から28日まで掲載）［渡辺光弥編著『土田杏村と新潟新聞』（非売品）、1996年、転載］。
・「不徹底語」（『新潟新聞』、1910年 6月29日から30日まで掲載）［渡辺光弥編著『土田杏村と新潟新聞』、転載］。
・「杏村日記抄」（1913年 3月 2日）（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』、収録）。
・「新時代の教育観」（『新潟新聞』、1913年 4月30日）［渡辺光弥編著『土田杏村と新潟新聞』、転載］。
・「新時代の教育観」（『新潟新聞』、1913年 5月16日）［渡辺光弥編著『土田杏村と新潟新聞』、転載］。
・「三崎日記」（『霊魂の彼岸』、聚英閣、1920年）、初出1914年。
・「黄金時代の一部より」（『新潟新聞』、1914年 6月13日）［渡辺光弥編著『土田杏村と新潟新聞』、転載］。
・「教育界の故老に与う」（『新潟新聞』、1914年 6月16日）［渡辺光弥編著『土田杏村と新潟新聞』、転載］。
・「彼の人達」（《全集十四》）、初出1915年。
・「具体と抽象」（《全集十四》）、初出1915年。
・「恩師藍原五三郎宛の杏村書翰（下）」（1915年 1月 1日）（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』、収録）。
・『生物哲学』、東亜堂書房、1916年。
・「転回せる与（ママ）が思想と生活」（『第三帝国』第70号、1916年 7月 1日）。
・「転回せる余が思想と生活（下）」（『第三帝国』第71号、1916年 7月15日）。
・「文芸の危険姓」（『第三帝国』第72号、1916年 8月 1日）。
・「共鳴五感」（『第三帝国』第75号、1916年 9月15日）。
・「小山内薫氏に与ふ」（『第三帝国』第75号、1916年 9月15日）。
・「公準としての愛」（《全集十四》）、初出1917年。
・「我が評論家諸子に与ふ」（『第三帝国』第80号、1917年 1月 1日）。
・「文芸上の人道主義は何処まで徹底すべきか」（『第三帝国』、82号、1917

年　3月 1日）。
・「新文芸の理想を提唱す」（『第三帝国』第83号、1917年　4月10日）。
・「象徴的神秘主義補説」（『第三帝国』第84号、1917年　5月10日）。
・「憂鬱の谷に咲く花」（『第三帝国』第85号、1917年 6月10日）。
・「新自然主義、新印象主義」（『第三帝国』第89号、1917年10月10日）。
・「評論界に於ける二種の無学者」（『第三帝国』第90号、1917年11月10日）。
・「新時代の文明を論ず」（『雄弁』、1917年10月）。
・「最近文壇に起りたる諸問題の哲学的価値を判ず」（『霊魂の彼岸』、聚英閣、1920年）、初出1918年。
・「跋」（山村暮鳥『風は木にささやいた』［『山村暮鳥全集第一巻』、筑摩書房、1989年］）、初出1918年。
・「三井甲之氏に答ふ」（『日本及日本人』、1918年 7月）。
・『象徴の哲学』、新泉社（復刻版）、1971年）、初出1919年。
・「質と量」（土田杏村『象徴の哲学』〈付録〉、新泉社（復刻版）、1971年）、初出1919年。
・「文化学と社会学」（《全集十四》）、初出1919年。
・「現今生活評論社会評論」（『創造』、1919年 6月）。
・「日本文化学院綱領」（『文化』第一巻第一号、1920年 1月）。
・「文化主義とは何ぞ（一）」（『文化』第一巻第一号、1920年 1月）。
・「文化主義とは何ぞ（二）」（『文化』第一巻第二号、1920年 2月）。
・「文化主義とは何ぞ（三）」（『文化』第一巻第五号、1920年 6月）。
・「文化主義に対する弁盲」（『雄弁』、1920年 7月）。
・「ナショナルギルドの社会論の文化主義的修正」（『雄弁』、1920年 9月）。
・「享楽的なる所謂文化生活を排す（下）」（『解放』、1920年12月）。
・『マルクス思想と現代文化』（後編）、佐藤出版、1921年。
・『文化主義原論』、内外出版、1921年。
・「ホルムスの社会改造論」（『文化』第二巻第一号、1921年 3月）。
・「ホルムスの自由教育論（一）」（『芸術自由教育』、1921年 3月）。
・「ホルムスの自由教育論（二）」（『芸術自由教育』、1921年 4月）。
・「自由といふ事の意義」（『芸術自由教育』、1921年 5月）。
・「此の境遇と此の教育と」（『日本及日本人』、1921年 5月）。
・「社会思想に於ける理想主義の長所」（『文化』第二巻第三号、1921年 5月）。

・「現代教育家に対する希望」（『現代』、1921年 6月）。
・「詩を中心としての綴方教授」（『創造』、1921年 6月）。
・「教育学界近況」（『芸術自由教育』、1921年 7月）。
・「奉仕といふ事の意義」（『芸術自由教育』、1921年 7月）。
・「芸術教育論」（『芸術自由教育』、1921年 8月）。
・「地方教育雑感」（『芸術自由教育』、1921年 9月）。
・「社会改造の哲学」（『大観』、1921年10月）。
・「社会主義とアナアキズムの統一としての文化主義」（『文化』第三巻第一号、1921年10月）。
・『自由教育論』、内外出版、1922年。
・『華厳哲学小論攷』（《全集五》）、初出1922年。
・「独立的女性道と文化」（『婦人公論』、1922年 1月）。
・「批判的教育学と文化主義」（『創造』、1922年 2月）。
・「当来社会原理への疑問」（『読売新聞』、1922年 3月 6日）。
・「新理想主義哲学概説」（『文化』第四巻第一号、1922年 5月）。
・「三権分立説の否定と議会代替機関の構成原理」（『表現』、1922年 5月）。
・「社会原理に就ての感想（上）」（『時事新報』、1922年 5月 4日）。
・「社会原理に就ての感想（下）」（『時事新報』、1922年 5月 5日）。
・「法律の解釈と多元的社会観」（『中央法律新報』、1922年 8月）。
・「階級自由教育の新潮流」（『創造』、1922年 8月）。
・「教育設備の改造」（『文化』第四巻第四号、1922年 9月）。
・「理想社会と権力」（『解放』、1922年10月）。
・「社会運動の道徳的基礎を論ず」（『文化』第四巻第五号、1922年10月）。
・『文化哲学入門』（《全集二》）、初出1923年。
・「文化とは何か」（《全集九》）、初出1923年。
・「教育と宣伝」（土田杏村『教育の革命時代』、中文館書店、1924年）、初出1923年。
・「我国の教育諸主義批判」（『教育の革命時代』）、初出1923年。
・「自由教育の功過」（『教育の革命時代』）、初出1923年。
・「プロレットカルト運動（三）」（『東京朝日新聞』、1923年 3月 4日）。
・「プロレットカルト運動（四）」（『東京朝日新聞』、1923年 3月 6日）。
・「プロレタリア文化及びプロレットカルトの問題」（『文化』第五巻第四号、1923年 4月）。
・「プロレットカルト論」（『中央公論』、1923年 6月）。

・『教育目的論』（《全集六》）、初出1924年。
・「教化に於ける具体的聡明の欠乏」（《全集三》）、初出1924年。
・「カント哲学と唯物史観」（《全集四》）、初出1924年。
・「究極点まで批判的に」（『帝国大学新聞』、1924年 4月24日）。
・「義務教育年限延長せらるべきか」（『教育の世紀』、1924年 7月）。
・「自由大学とは何か」（『伊那自由大学パンフレット』、1924年 8月）。
・「教育界の流行を論ず」（『教育研究』、1924年 8月）。
・「自由大学とは何か」（『伊那自由大学パンフレット』、1924年 8月）［自由大学研究会『自由大学研究第四号』、1976年、所収］。
・「恋愛価値の検討」（『婦人公論』、1924年 9月）。
・「教育界の流行を論ず（三）」（『教育研究』、1924年10月）。
・「教育目的論に於ける社会と個人との対立問題（上）」（『自由教育』 3号、1924年12月）。
・『社会哲学原論』、内外出版、1925年。
・「教育界の流行を論ず」（『教育研究』、1925年 4月）。
・「教育目的論に於ける社会と個人との対立問題（下）」（『自由教育』 7号、1925年 7月）。
・「義務教育年限延長せらるべきか」（『教育の世紀』、1925年 7月）。
・「普選の実行と今後の教育」（『教育研究』、1925年10月）。
・『日本支那現代思想研究』、第一書房、1926年。
・「社会教育学講座」（『アルス文化大講座第一巻』、アルス、1926年）。
・「社会教育学講座」（『アルス文化大講座第三巻』、アルス、1926年）。
・「社会教育学講座」（『アルス文化大講座第五巻』、アルス、1927年）。
・『現代哲学概論』（《全集一》）、初出1928年。
・『社会哲学』、日本評論社、1928年。
・『草煙心境』、第一書房、1929年。
・『思想問題』（《全集三》）、初出1929年。
・『人生論』（《全集一》）、初出1930年。
・「兄麦僊の少年時代」（《全集十五》）、初出1930年。
・「社会理想主義とは何か」（『公民講座』、1930年 1月）。
・「ヘエゲル弁証法と唯物弁証法」（『理想』第26号、1931年）。
・『人間論』（《全集一》）、初出1932年。
・「西田哲学の時代的意義」（《全集十五》）、初出1932。
・「文化主義」（社会思想社編『社会科学大辞典』、改造社、1932年）。

・（長谷川巳之吉編纂）『妻に与へた土田杏村の手紙』、第一書房、1941年。

その他の資料（発表年順・西暦で統一）

・波多野精一『西洋哲学史要』（『波多野精一全集第一巻』、岩波書店、1968年）、初出1901年。
・西田幾多郎「倫理学草案」（1905年から1906年にかけて執筆されたものといわれている）（『西田幾多郎全集第十六巻』、岩波書店、1966年。
・長谷川天渓「幻滅時代の芸術」（『日本近代文学大系第五十七巻』、角川書店、1972年）、初出1906年。
・北原白秋「断章（四十六）」（『白秋全集第二巻』、岩波書店、1985年、初出1909年）。
・安倍能成「自然主義に於ける主観の位置」（『日本近代文学大系第五十七巻』）、初出1910年。
・北原白秋「時は逝く」（『白秋全集第二巻』、初出1911年）。
・西田幾多郎「哲学概論」〔京都帝大における1912～13年の講義筆記〕（『西田幾多郎全集第十五巻』、岩波書店、1966年）。
・「土田茂君」（『雄弁』、1914年、新年号）。
・中島半次郎『人格的教育学の思潮』、同文館、1914年。
・中島半次郎『人格的教育学と我国の教育』、同文館、1915年。
・井上哲次郎『人格と修養』、廣文堂書店、1915年。
・山村暮鳥「大宣辞」（『山村暮鳥全集第一巻』、筑摩書房、1989年、初出1915年）。
・西田幾多郎『自覚に於ける直観と反省』（『西田幾多郎全集第二巻』、岩波書店、1965年）、初出1917年。
・西田幾多郎「現代に於ける理想主義の哲学」（『西田幾多郎全集第十四巻』、岩波書店、1966年）、初出1917年。
・西田幾多郎「象徴の真意義」（『西田幾多郎全集第三巻』、岩波書店、1965年）、初出1918年。
・左右田喜一郎「文化主義の論理」（鹿野政直編集『大正思想集Ⅱ』〈近代日本思想大系34〉、筑摩書房、1977年）、初出1919年。
・高畠素之編『社会問題総覧』、公文書院、1920年。
・後藤新平「序」（藤原俊夫『日本社会改造論』、極東書院、1920年）。

・小林鐵太郎『近時の社会問題』、法制時報社、1920年。
・桑木厳翼『文化主義と社会問題』、至善堂書店、1920年。
・佐野袈裟美『社会改造の諸問題』、日本評論社、1920年。
・金子筑水「時代精神としての文化主義」（『大観』、1920年 6月）。
・権田保之助「民衆の文化か、民衆の為の文化か」（『大観』、1920年 6月）。
・西宮藤朝「文化主義と功利主義」（『大観』、1920年 6月）。
・野村隈畔「文化主義と超越主義」（『大観』、1920年 6月）。
・桑木厳翼「文化主義の問題と基礎」（『大観』、1920年 6月）。
・権田保之助「社会改造と文化主義」（『雄弁』、1920年 6月）。
・権田保之助「民衆の文化か、民衆の為の文化か」（『大観』、1920年 6月）。
・大山郁夫「民衆文化と自分－権田保之助氏に答ふ－」（『我等』、1920年 7月）。
・権田保之助「民衆文化主義の展開－大山郁夫氏に対する私の『誤解』に就いて－」（『大観』、1920年 8月）。
・大山郁夫「民衆文化への疑問に就いて－再び権田保之助氏に答ふ－」（『我等』、1920年 9月）。
・吉野作造「現代通有の誤れる国家観を正す」（『吉野作造選集１』、岩波書店、1995年）、初出1921年。
・安部磯雄『社会問題概論』、早稲田大学出版部、1921年。
・江幡亀壽『社会教育の実際的研究』、博進館、1921年。
・村松正俊「阿部次郎氏と現代社会問題」（『新小説』、1921年 5月）。
・平林初之輔「人格主義を駁す」（『新潮』、1921年 6月）。
・大山郁男「社会思想に於ける理想主義の弱点」（『我等』、1921年10月）。
・吉野作造「思想家と実際家との協戮を提唱す」（『吉野作造選集４』、岩波書店、1996年）、初出1922年。
・阿部次郎『人格主義』（『阿部次郎全集第六巻』、角川書店、1961年）、初出1922年。
・竹内仁「阿部次郎氏の人格主義を難ず」（『近代文学評論大系５』、角川書店、1972年）、初出1922年。
・竹内仁「リップスの人格主義に就て－阿部次郎氏のそれを批評する前に」（『我等』、1922年 2月）。
・阿部次郎「竹内仁氏に答ふ」（『改造』、1922年 3月）。
・竹内仁「再び阿部次郎氏に」（『新潮』、1922年 4月）。
・赤木朝治『社会問題概論』、巌松堂書店、1923年。

・小牧近江「二つのプロレツトカルト」（『早稲田文学』、1923年 2月）。
・島為男「プロレツトカルトと教育」（『帝国教育』、1923年 5月）。
・永井亨『国民精神と社会思想』、巖松堂書店、1924年。
・島中雄三「プロレツトカルトの意義及び現状（『文化運動』、1924年10月）。
・河田嗣郎『社会問題体系第一巻』、有斐閣、1925年。
・西谷啓治『世界観と国家観』、弘文堂書房、1926年。
・小島憲『文化の特質と社会問題』、有斐閣、1926年。
・河田嗣郎『社会問題綱要』、改造社、1926年。
・田邊元「土田杏村『日本支那現代思想研究』について」（『田邊元全集第十四巻』、筑摩書房、1964年）、初出1926年。
・吉場強『社会改造の基点』、聖山閣、1927年。
・春山作樹「社会教育学概論」（『岩波講座・教育科学』、岩波書店、1932年。
・新村出「土田杏村君を悼む」（『大阪朝日新聞』1934年 5月 2日）［『新村出全集第十四巻』、筑摩書房、1972年］。
・西田幾多郎「土田杏村の哲学的出発」（『セルパン』〈土田杏村追悼号〉、1934年 6月）。
・務台理作「土田杏村の哲学」（『セルパン』〈土田杏村追悼号〉）。
・西田幾多郎「街頭の思索者」（《全集三》、箱（ハードケース）に印刷、1935年）。
・福原麟太郎「土田杏村」（『福原麟太郎著作集第五巻』、研究社、1968年）、初出1935年。
・西田幾多郎「行為的直観」（『西田幾多郎全集第八巻』、岩波書店、1965年）、初出1937年。
・杉村廣蔵「理想主義概論」（石原純他編『廿世紀思想第一巻』、河出書房、1939年）。
・三木清「読書遍歴」（『三木清全集第一巻』、岩波書店、1966年）、初出1941年。
・ヘーゲル（武市健人訳）『大論理学』（『ヘーゲル全集6ａ』、岩波書店、1956年）。
・家永三郎他編著『近代日本思想史講座第一巻』、筑摩書房、1959年。
・宮西一積『近代史思想の日本的展開』、福村書店、1960年。
・吉田久一『清沢満之』、吉川弘文館、1961年。
・出隆「大正期の若い哲学者たち」（『出隆著作集第七巻』、頸草書房、1963年）。

・宮原誠一『教育史』、東洋経済新報社、1963年。
・カント（深作守文訳）『実践理性批判』（『カント全集第七巻』、理想社、1965年）。
・カント（原佑訳）『判断力批判』（『カント全集第八巻』、理想社、1965年）。
・福原麟太郎「大塚の学校」（『福原麟太郎著作集第六巻』、研究社、1969年）、初出1965年。
・ジノ・K．ピォヴェザーナ（宮川透・田崎哲郎訳）『近代日本の哲学と思想』、紀伊国屋書店、1965年。
・船山信一『大正哲学史研究』、法律文化社、1965年。
・カント（原佑訳）『純粋理性批判（上）』（『カント全集第四巻』、理想社、1966年）。
・カント（原佑訳）『純粋理性批判（中）』（『カント全集第五巻』、理想社、1966年）。
・宮坂広作『近代日本社会教育史の研究』、法政大学出版局、1968年。
・ヘーゲル（真下・宮本訳）『小論理学』（『ヘーゲル全集１』、岩波書店、1969年）。
・ヘーゲル（武市健人訳）『歴史哲学〈改訳〉』（『ヘーゲル全集第 10-b』、岩波書店、1969年）。
・三嶋唯義『人格主義の思想』〈復刻版〉、紀伊国屋書店、1994年）、初出1969年。
・三枝博音『日本に於ける哲学的観念論の発達史』、清水弘文堂書房、1969年。
・松村憲一「自主的成人教育活動としての『上田自由大学』運動とその限界」（早稲田大学社会科学研究所プレ・ファシズム研究部会編『日本のファシズム－形成期の研究－』、1970年）。
・宮川透「日本思想史における《修養》思想－清沢満之の『精神主義』を中心に－」（吉田光他編『近代日本社会思想史Ⅱ』、有斐閣、1971年）。
・ヘーゲル（金子武蔵訳）『精神の現象学（上）』（『ヘーゲル全集４』、岩波書店、1971年）。
・上山春平「阿部次郎と大正教養主義」（『上山春平著作集第九巻』、法藏館、1995年）、初出1971年。
・岩田淳二『ドイツ理想主義の系譜』、法律文化社、1972年。
・Fairfield, Roy.“Need for a risk quotinent,”*Social Policy*, January/February, vol.2, no.5, 1972.

・Gintis, Herbert.“Towards a Political Economy of Education : A Radical Critique of Ivan Illich's Deschooling Society,”*Harvard Educational Review*, vol.42, no.1, February, 1972.
・カント（原・湯本佑訳）『純粋理性批判（下）』（『カント全集第六巻』、理想社、1973年）。
・佐藤忠男「思想史を歩く－土田杏村と自由大学（中）」（『朝日新聞』、1973年 8月 6日）。
・金子武蔵「序文」（金子武蔵編『人格』、理想社、1974年）。
・山野晴雄「自由大学研究の現段階と課題」（自由大学研究会『自由大学研究』第２号、1974年）。
・黒沢惟昭「自由大学研究につての覚書－教養概念をめぐって－」（一橋大学一橋学会編集『一橋論叢』、1974年 5月）。
・峰島旭雄「大正期における倫理・宗教思想の展開（３）－土田杏村の哲学・再評価－」（『早稲田商学』第 258号、1976年）。
・ヘーゲル（金子武蔵訳）『精神の現象学（下）』（『ヘーゲル全集５』、岩波書店、1977年）。
・鹿野政直「解説」（『大正思想集Ⅱ』〈近代日本思想大系34〉、筑摩書房、1977年）。
・石津靖大「補・土田杏村のプロレットカルト論」（『女子聖学院短期大学紀要』第 9号、1977年 2月）。
・小島勝「大正自由教育の展開」（池田進・本山幸彦編『大正の教育』、第一法規、1978年）。
・廣松渉・吉田宏哲『仏教と事的世界観』、朝日出版社、1979年。
・大槻宏樹『自己教育論の系譜と構造』、早稲田大学出版部、1981年。
・上木敏郎『土田杏村と自由大学運動』、誠文堂新光社、1982年。
・小野竹喬私信（上木敏郎『土田杏村と自由大学運動』）。
・大槻宏樹「近代社会教育論の展開過程」（『社会教育論者の群像』、全日本社会教育連合会、1983年）。
・中村雄二郎『西田幾多郎』、岩波書店、1983年。
・栗田義彦他『ドイツ観念論哲学の原理』、高文堂出版社、1983年。
・社会教育基礎理論研究会編著『叢書生涯学習Ⅰ 自己教育の思想史』、雄松堂出版、1987年。
・柳沢昌一「自由大学運動における自己教育思想の形成過程」（社会教育基礎理論研究会編『叢書生涯学習Ⅰ・自己教育の思想史』、雄松堂、1987年）。

・森重雄「モダニティとしての教育－批判的教育社会学のためのブリコラージュ－」（『東京大学教育学部紀要第27巻』、1987年）。
・カッシーラー（生松・木田訳）『シンボル形式の哲学（一）』、岩波文庫、1989年。
・宮原誠一『社会教育論』、国土社、1990年。
・高崎直道『「大乗起信論」を読む』、岩波書店、1991年。
・上木敏郎「“杏村”号の由来」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・田辺汎「佐渡・新潟時代の思い出」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・小柳信助「新潟時代の思い出」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・井上桂「思ひ出」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・山岸徳平「土田杏村さんの思出」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・土居音三郎「土田茂君の思い出」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・石田茂作「偉大な先輩と虫けら程の私」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・中川杏果「杏村のこと」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・塚本文治「土田杏村氏を偲ぶ」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・由良哲次「土田杏村と私」（上木敏郎編著『土田杏村とその時代』）。
・山口和宏「土田杏村における『教養』の問題」（日本教育史学会紀要編集委員会編『日本の教育史学36』、講談社、1993年）。
・山口和宏「自由大学における『教養主義』再考」（日本社会教育学会『日本社会教育学会紀要30』、1994年）。
・佐古純一郎『近代日本思想史における人格観念の成立』、朝文社、1995年。
・山口和宏「土田杏村のユートピア」（上杉孝実・大庭宣尊編『社会教育の近代』、松籟社、1996年）。
・山口和宏「土田杏村における『華厳の世界観』の成立」（『教育論叢』第10巻第 1号、近畿大学教職教育部、1999年）。